

堺にすむいきものや彼らのすみかのことをどのくらい知っていますか？

堺市の生物多様性にふれる冊子

のぞいてみよう
堺市の生物多様性

堺いさものの通信

2022春号

3月～5月に堺市内で見られる！

堺にすむ

いきものたち



クマバチ



ヤマトシジミ

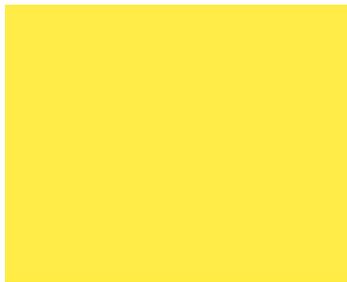


ニホントカゲ

ここでご紹介する写真はすべて堺市内で撮影された写真です！
Webサイト「堺いきもの情報館」に、市民の方などからご投稿いただきました。
個性豊かないきものたちや彼らのすみかを見て・知って、
生物多様性を感じてみてください。



アカサシガメ



キアゲハ



シジュウカラ

生物多様性とは——

すべての生物の間に違いがあること

たくさんの個性豊かないきものたちが、**つながり**をもって生きています。



アオダイショウ



ニホンアカガエル（ふ化直後）



ツクシハギ



堺市の生物多様性を知るには「堺にはいろいろないきものがいて、いろいろなすみかがある」と知るところから！

いき

もの知りになろう！

～チョウの幼虫は「こだわり屋さん」～



写真のいきものは「モンシロチョウ」です。白い翅（はね）に、黒い筋や模様があるのが特徴で、個体によっては少々黄みを帯びた翅をもつものもいます。身近なところでよく見られる種ですので、見かけたら観察してみましょう。

ところで、モンシロチョウの幼虫は主に「キャベツの葉」を好んで食べることをご存知ですか？チョウの仲間の多くは、幼虫のときに食べる植物の種類が決まっています。モンシロチョウの幼虫はアブラナ科の植物が大好物。キャベツはアブラナ科の植物の一種です。生き物が食べる特定の植物を「食草（しょくそう）」といい、植物が持つ化学的な成分にひかれて、決まった植物を食べるようです。アブラナ科の植物を探せば、モンシロチョウの幼虫も観察できるかも知れません。



マメコガネ



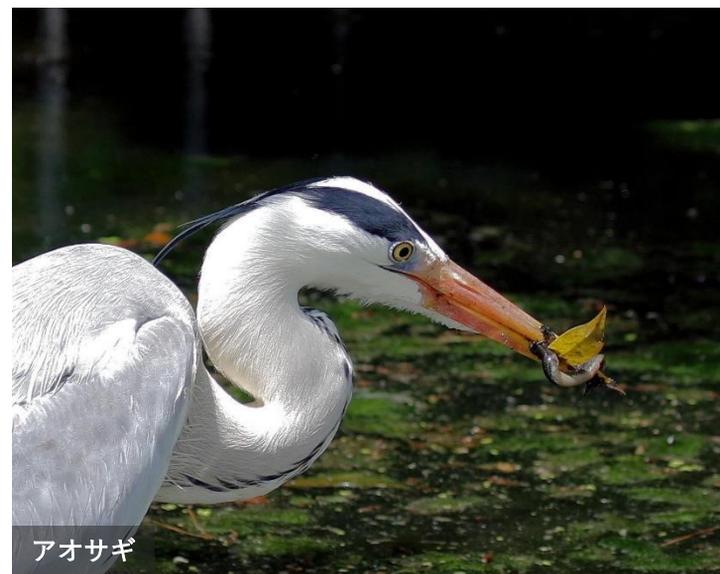
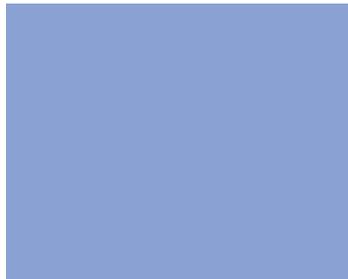
ドクダミ



ウスカワマイマイ



ニホンヤモリ



アオサギ

いきものたちのすみか

いきものたちはどこにすんでいるのか？

ここでご紹介する多くの写真にはいきものの姿だけでなく、様々な自然環境が写りこんでいます。彼らのすみかは多種多様です。

堺市内には草地のある公園やため池、河川、木々がしげる古墳や南部丘陵などといったいきものたちのすみかがたくさん存在します。みなさんの身近な場所にあるすみかにもいろんないきものたちがすんでいるはずですよ。

このように様々なすみかがあることを生物多様性の一つである「生態系の多様性」といいます。

生物多様性とは身近なものなんですよ！



ホタルブクロ

もっと **いき** もの知りになれる！

生物多様性のおはなし

アメリカザリガニ、ウシガエル、ミシシippアカミミガメ等々。日本において、これらの生き物が、外来種（外来生物）として自然界にはびこることになったのは、人間の都合が主な理由だということをご存じでしょうか。

外来種とは、「もともとその生き物がくらす場所ではないところへ、人間によって運ばれた生き物」のことです。人間の都合で運ばれてきた彼らは、在来種（在来生物）のくらす場所や食べ物を奪ったり、在来種自体を捕食したりするなどして、その地域の自然や在来種にしばしば大きな影響を与えるため、厄介な存在として扱われています。今回は、外来種が運ばれてきた背景についてご紹介しますが、実はこの内容は、生物多様性を脅かす4つの危機要因に繋がっていきます。

生き物が運ばれるのは“非意図的”と“意図的”、2つの場合があります。前者は“知らぬ間に国外からの荷物に紛れて運ばれる場合”などで、後者は“食料や材料として利用するためやペットとして楽しむことなどを目的に運ばれる場合”などです。どんな生き物にせよ、初めから厄介な存在として疎まれるために運ばれてきたわけではありません。例えば、ウシガエルは戦時中の食料として運ばれてきましたし、アメリカザリガニはそのウシガエルのエサとして運ばれてきました。ミシシippアカミミガメも、一時期ペットとして人気を博したため、たくさん輸入されました。そのような生き物たちが野外へ逃げ出したり、人間の都合で不必要な存在になって野外へ放されたりしたのです。その結果、新しくくらす場所が彼らにとって好条件だったこともあり、みるみるうちに数を増やし、厄介な外来種となっていきました。今や、外来種は、生物多様性を脅かす4つの危機要因の1つである第3の危機として問題視されています。

第3の危機とは、「人間により持ち込まれたもの（外来種など）による危機」のことで、その具体的要因の1つが「外来種の侵入と定着」です。外来種の存在が問題なのも確かですが、やはり事の発端は「人間活動の影響によるもの」です。私たち人間の行動が、いかに生物多様性に影響を及ぼすのか。このことを知り、私たちにできることを実践していきましょう。他の地域から持ち込んだ生き物や、お店で買った生き物は、絶対に野外へ放さないようにし、ペットを飼うときは最後まで責任を持って飼うことが大切です。

参考文献：宮下直、瀧本岳、鈴木牧、佐野光彦著『生物多様性概論「自然のしくみと社会のとりくみ」』朝倉書店、2017-3-10
環境省生物多様性ウェブサイト。「次期生物多様性国家戦略の策定に向けて」<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>（参照2021-11-12）
加藤英明監修、「外来生物大集合！おさわがせいきもの辞典」高橋書店、2019-5-30



堺市の生物多様性を考えるWEBサイト

《編集・発行》

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL：072-228-7440 / FAX：072-228-7317

E-mail：kankyo@city.sakai.lg.jp



Webサイト
トップページ

ユーザーネーム
sakai_ikimono



Instagram
アカウント